

『漢語大詞典』では「垂竿釣魚」と説明し、孟浩然の「臨洞庭詩」に「坐觀垂釣者、徒有羨魚情」の句を載せる。

〔参考〕類語の「垂魚」の語意を『漢語大詞典』では「佩為飾。帶魚袋。唐制五品以上官員於腰間、佩帶金銀魚袋為飾」と説明している。またこの語は太公望（呂尚）の故事を含む語でもある。

『漢語大詞典』では「垂釣翁」の説明として「指輔佐周武王、滅殷的太公望（呂尚）」、李白の「效古詩之一」にある「早達勝晚遇、羞比垂釣翁」の句を載せる。『白氏文集』「231 渭上偶釣」に「釣人不釣魚、七十得文王、況我垂釣意、人魚又兼忘」の句が見える。この白詩も同様の使われ方である一方、『菅家文草』「249 春日獨遊三首（二三）」にも「適遇多情垂釣叟、各言其志不言魚」の句が見える。

この句を、岩波古典文学大系本の頭注で、川口久雄氏は「府吏は（本当のびくの魚袋でなく）官吏のしるしである魚袋を出して釣り糸を垂れている」と解され、「一種のしゃれであろう」と説明されている。一方桑原朝子氏は先に引いた著『平安朝の漢詩と「法」』の中で、「それを見えるように出して釣り糸を垂れるということは自分の中央における権勢をちらつかせてそれに繋がった在地の富豪達を釣りあげる、すなわち彼らが賄賂をとろうとする、という意味に解することが出来る」と述べる。（三〇九頁）

ここでは、後者の桑原朝子氏の論に従った。↓補説①

76 ○箒篋…車の塵除け。覆い。竹製。「集韻」箒、箒篋、車幡。

『漢語大詞典』では、「①以竹席遮塵的車幡」と説明がある。中国における「箒篋」は、「竹製の塵除